

本港地区の課題

■ 人口減少、少子高齢化への対応

- ・人口は1985年の43,998人をピークに減少
- ・2020年以降は**全年齢階層で減少**と予測

■ 本港地区と中心市街地が一体となった新たなにぎわいづくり

- ・みなと交流センターkocoloを中心に**各種イベント開催**
- ・多様な世代が交流する、にぎわいのあるまちづくり

■ 時代の潮流への対応

- ・**防災・減災、環境問題への対応**
- ・**先端技術の活用及び人材育成**
- ・SDGsの推進
- ・新型コロナウイルス感染症などのリスクに対応できる社会づくり

■ 地域活性化のための観光振興対策

- ・自然や歴史・文化、産業などの地域資源を最大限に活かし、地域が一丸となった**質の高い観光地づくり**
- ・魅力的な旅行商品の開発や観光情報の効果的な発信
- ・観光客のニーズを的確に把握した**体験型観光プラン**の開発・育成、それらを活かした**滞在型観光の充実**
- ・アフターコロナを見据えたクルーズ客船寄港への対応

■ 公共空間を活かした憩いの場づくり

- ・**子育てできる環境づくり、子どもの居場所づくり**
- ・あらゆる年代が安全・快適で利用しやすい**施設づくり**
- ・安心して利用できる**管理運営**

まちづくりを考える上での「6つの視点」

視点1 新たなにぎわいの創出

イベントの開催や交流拠点の再整備、既存施設の改修等による**新たなにぎわいづくり**



視点4 人を育て、共につながるまち

人々が健康で安らぎを得られるような空間整備と、**交流ができる場づくり**



視点2 快適な回遊空間の形成

既存の遊歩道を活用した**歩きたくなる歩行空間**整備による、居心地の良い歩行者ネットワークの構築



視点5 潤い・憩いの空間形成

海やみなと、緑や湧水を活かした、あらゆる世代が**憩える空間の整備**



視点3 地域資源を活用した魅力の向上

みなとまちの歴史や文化、海や湧水などの自然資源等を活用した**地域の魅力の向上**



視点6 持続可能なまちづくりの実現

民間活力の導入、官民協働などによる**持続可能なまちづくり**



今後の整備方針

1. 本港地区及び中心市街地の事業化の方針

5つの戦略を持ってみなとまちづくりに取り組む上での4つの事業方針を定め、その方針のもと事業を推進します。

- ① **国、県、市と関係団体、市民が連携した事業推進**を図る。
- ② 事業を実施するにあたり、**交付金・補助事業を推進**する。
- ③ 様々な施設利用者や地域住民等の相互の**多様な交流がしやすい空間づくり**に努めます。また、にぎわいの創出や回遊性の向上のため、周辺の施設や中心市街地との連携による**相乗効果、波及効果を生み出す施設**を目指します。
- ④ 民間事業者の資金やノウハウを活用するPPP/PFI手法の導入など、**官民連携による効率的な施設整備や管理運営を検討**します。民間事業者の事業参画意欲を高め、関連民間開発の誘発などの相乗効果を目指します。

将来像

人々が集い 交流し
にぎわいと憩いをつなぐ みなとまち

～ 新しいみなとまちを目指して～

小松島みなとまちづくり将来像

海に面した開放的な空間を活かし、イベントや音楽、スポーツなど様々な活動を楽しみあらゆる世代が集う、にぎわいのあるみなとまち

人々が安心して集える憩いのある場を創出し活気と癒しが共存する多様なみなとまち

将来像の実現に向けた5つの戦略

| | | | | |
|--|----------------------------|-----------------------------|-----------------------|--|
| ① にぎわい・交流 | | | | |
| あらゆる世代が集い、交流し新たなみなとまちを形成します。 子育て世代を中心に、あらゆる世代が集い、市外からの来訪者とも交流できる「みなとまち」として、豊かな余暇や日常のひとときを過ごすことができる空間、にぎわいの場の整備を目指します。 | | | | |
| | | | | |
| ② まちとの連携 | ③ 歴史・文化・観光 | ④ オアシス | ⑤ サステイナブル | |
| 「みなと」と「まち」を結びます。 | 小松島市の歴史を楽しく学べる環境を整えます。 | 海、陸からの訪問者の休憩施設の充実を図ります。 | 持続可能なまちづくりを目指します。 | |



癒やしと憩いの空間プロジェクト

5つの戦略 ① ② ③ ④ ⑤

学びのレクリエーションゾーン

市立図書館とためき広場を連続した空間を整備します。開放感のある癒しと憩いの空間を創出し、誰もが一緒に遊べるインクルーシブ遊具をSL記念広場に設置します。施設整備においては、民間活力の導入を検討します。



回遊空間形成プロジェクト

5つの戦略 ① ② ④ ⑤

快適な回遊路

連続した歩行空間を、居心地が良く歩きたくなるまちなかを創出するため、快適でウォーカブルな歩行空間を整備します。

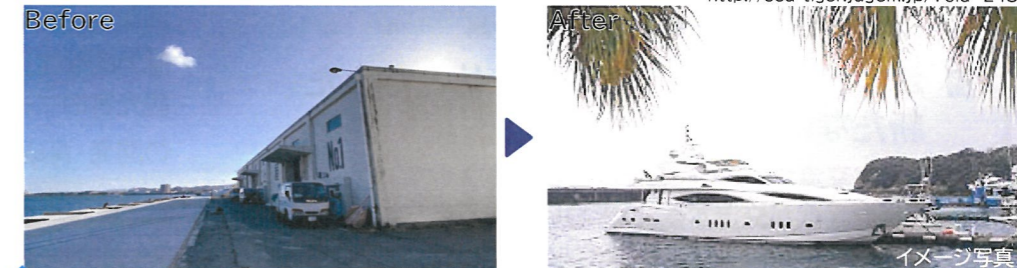


ウェルカム空間プロジェクト

5つの戦略 ① ② ④ ⑤

船舶交流ゾーン

大型船舶の関係者が憩うことができる空間の整備を検討します。



出典)南紀シータイガーマリーナのブログ
http://sea-tiger.jugem.jp/?eid=243

イメージ写真

港湾ビジネスゾーン

内航船の利便性向上を図るとともに、環境負荷低減やエネルギー効率を考慮した環境整備を検討します。



イメージ写真(函館市)

にぎわい交流プロジェクト

5つの戦略 ① ② ④ ⑤

ウォーターフロントゾーン

小松島みなと交流センターkocoloを官民連携により施設改修を図り、子育て世代を呼び込む施設整備を行います。海に面した立地を活用した、イベント開催や開放的な空間により、にぎわいのあるゾーンを形成します。



アクティブ交流プロジェクト

5つの戦略 ① ④ ⑤

アクティブレクリエーションゾーン

天候や気候に左右されない屋内プール、運動や学び、趣味等多様な目的に対応可能な空間を備えた複合施設を整備します。施設整備においては、民間活力の導入を検討します。

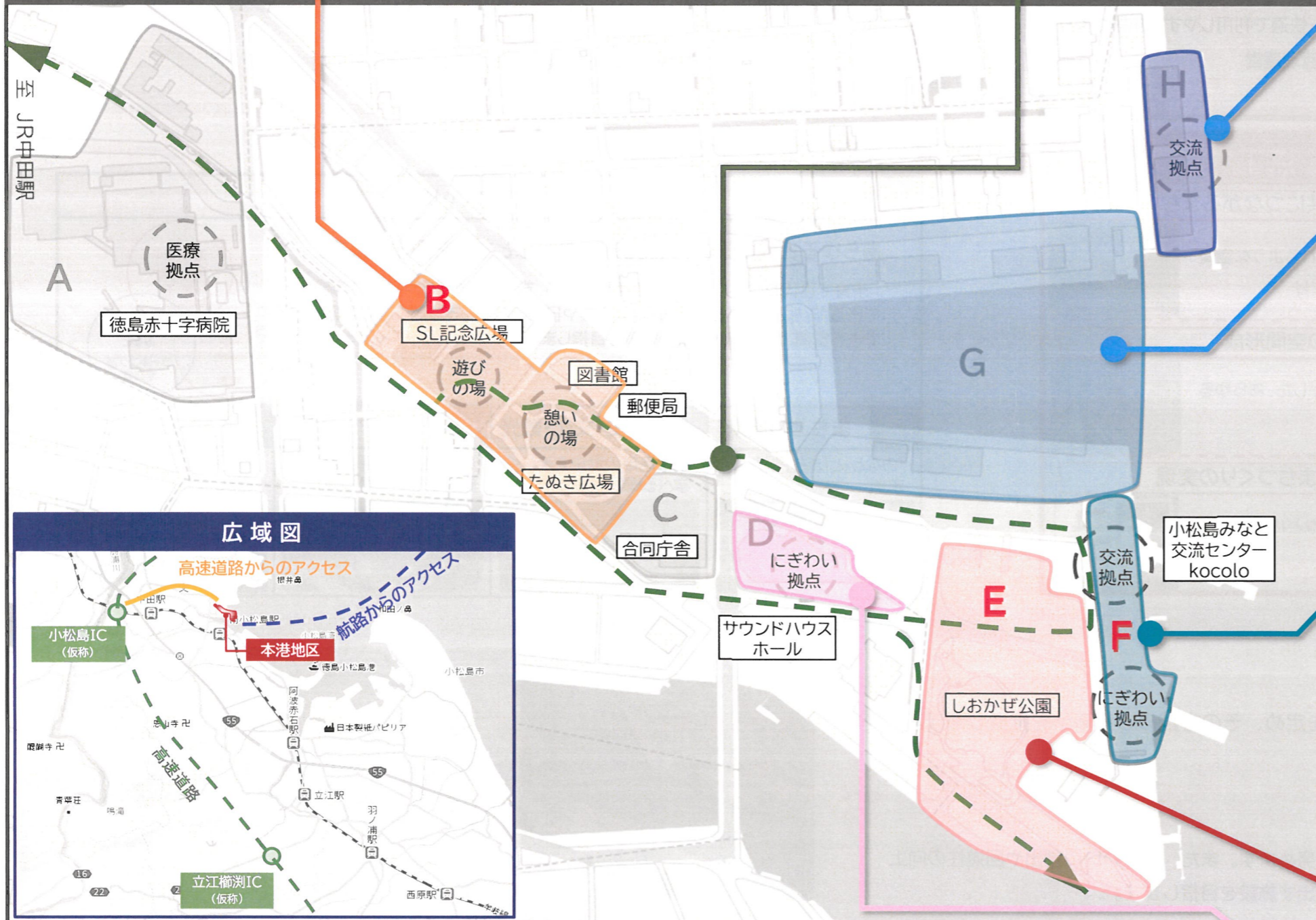


イメージ写真(屋内プール)

文化芸術にぎわいプロジェクト

5つの戦略 ① ③ ⑤

本港地区 / 中心市街地 ゾーニングイメージ



- A. メディカルゾーン
 - B. 学びのレクリエーションゾーン
 - C. 公共施設ゾーン
 - D. 文化レクリエーションゾーン
 - E. アクティブレクリエーションゾーン
 - F. ウォーターフロントゾーン
 - G. 港湾ビジネスゾーン
 - H. 船舶交流ゾーン
- 赤字:積極的に民間活力の導入を検討するゾーン

- 快適な回遊路
- 5つの戦略 凡例
- ① にぎわい・交流
 - ② まちとの連携
 - ③ 歴史・文化・観光
 - ④ オアシス
 - ⑤ サステナブル